

■呼吸器外科

1. 2021年度の目標及び方針

計画① 安定した手術件数と低い術後合併症発生率の確保

計画② 単孔式低侵襲手術やロボット手術等、新たな手術選択肢の導入（準備）

計画③ 胸部腫瘍凍結治療の確実な実施

2. 2020年度評価

（安定した手術件数と低い術後合併症発生率の確保に関する評価）

県内有数の手術件数と低い合併症発生率を両立している。他医療機関における治療困難症例に対しても有効な治療を行っているが、年間手術症例数190件と手術件数は例年と比較して低調であった。コロナ禍の影響が考えられる。

（単孔式低侵襲手術やロボット手術等、新たな手術選択肢の導入（準備）に関する評価）

ロボット手術の導入は決定しており、実際的な各種検討の段階に入っている。

（胸部腫瘍凍結治療の体制再構築と確実な実施に関する評価）

選択された患者において、凍結療法を施行している。

（安定したスタッフ人材確保ができる体制の整備に関する評価）

順天堂大学呼吸器外科との関係を構築し、継続的な人材確保ができる体制を整備した。

3. 2020年度 呼吸器外科手術件数

2020年度 呼吸器外科 手術件数				
術式			総数	内 胸腔鏡下
1	肺悪性腫瘍手術	肺部分切除術	39	39
2	同	肺区域切除術	26	26
3	同	肺葉切除術	67	62
		（・気管支形成を伴うもの）	2	0
		（・多臓器合併切除を伴うもの）	2	0
4	気胸手術		18	18
5	膿胸手術		3	3
6	血胸手術		2	2
7	胸腺摘出術		6	5
8	その他の縦隔腫瘍手術		3	3
9	胸壁切除術/胸郭成形術		6	0
10	気管支鏡下手術		14	
11	肺/胸膜生検		4	4

12	その他		2	2
	合計		190	164

4. 呼吸器外科の活動内容（試み・特徴）紹介

- ・肺癌を中心として気胸、縦隔腫瘍、膿胸など各種疾患の外科的治療を行っている。
- ・肺癌に対しては癌の治癒と生活の質の維持、双方を重視した治療を心がけている。
- ・肺癌術式として身体への負担の少ない完全鏡視下肺葉切除術や肺機能をより温存する肺区域切除術を行っている。
- ・治療の困難な進行した肺癌に対して手術と化学療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を積極的に行っている。
- ・早期の肺癌や転移性肺腫瘍に対して局所麻酔下に腫瘍に針を刺してがん細胞を凍らせて死滅させる凍結療法を行っている。

5. 学術関係

5-1. 原著論文

なし

5-2. 学会発表

金 正佑 他： 縦隔原発未熟奇形腫のGrowing teratoma syndrome (GTS)が疑われた一例； 第185回日本胸部外科学会関東甲信越地方会

ライブ配信 2021年3月13日

文責： 呼吸器外科 杉村 裕志